

教育課程編成委員会（分科会） 看護学科 議事録

1. 日時 令和6年1月31日（水） 13時25分~14時30分
2. 場所 島根県看護協会
3. 参加者 島根県看護協会理事：原 徳子・田中 真美
副学校長：神田 眞理子 教務部長：落合 美枝 学科長：鎌田 麻美

4. 分科会

議事内容（資料参照）

- 1) 看護学科の状況について
 - (1) カリキュラムの内容について
 - (2) 実習について
- 2) 意見交換
 - (1) 臨地実習報告について
 - (2) 課題について

神田) 本校は入学から卒業まで3年間の教育課程で座学と臨地実習を行っている。4年制の大学ではなく3年制の専門学校の教育の厳しさを現場にも理解をいただきながら、基礎教育を進めているところである。

田中理事) 現場の看護職の層も若く、指導力不足の部分もあるのではないかと感じる部分はある。学生さんにどのように伝えていくか、学校側だけでなく教育の場を提供するほうにも問題はあると感じている。

原理事) 実習施設にはどのようなことを求められているのか？

鎌田) 以前は、実習記録の持ち帰りも可能であったため、自宅で看護過程の展開や翌日の計画を練り直すことができた。しかし、現在は記録の持ち帰りをしないため、患者さんとかかわる時間は限られている。その限られた時間で病院環境も含め、患者さんと接し、看護師が患者さんにかかわる姿を見て、座学では学べない生の看護に触れる場の提供があるとありがたい。看護師の臨床判断や、行動の意味づけを言葉にして学生に伝えていただくことが必要だと感じている。看護過程の展開については、1年次から基礎を学び、各領域の実習前には紙上事例を用いて行っているため、そのことも含めて現場への理解を得ていきたいと考えている。

神田) 病院によって実習指導体制が異なるため、教員と実習指導者の役割をどのように明確にしていくかも課題である。松江赤十字病院は臨地実習の教育体制が整っており、役割が明確になっていると実習指導教員から聞いている。

看護職と教員が交流できる研修などを県や協会を通じて企画していただくと、学生を共に育てるという共通認識が持てる良い機会になるのではないかと感じている。

実習先は、学生の就職の判断材料にもなっており、西部への就職につなげるためにも次年

度は西部地域への実習も予定している。

田中理事) 実習指導者講習会については、指導案の立案だけでなく、病院で実習指導のモデルを見る機会を設ける内容を組み込むことも必要だと感じている。

原理事) 松江赤十字病院は、実習指導者の役割を意識させ、委員会での意見を集約している。先輩看護師の姿を見て後輩は自然に実習指導について意識づけができていないのではないかと思う。実習指導においては、教員と実習指導者のすみわけが必要である。現場で学んだことを一つひとつ形作るのは教員であるが、そこにしかない学びを提供するのは実習施設だと考える。実習指導者はその場・その時の看護の裏付けを伝えることが必要だと考える。各学年での実習の目標など情報共有はどうか？

鎌田) 各実習施設ごとに実習要項等の説明などを行い、その際にも実習目的・目標も共有している。しかし、全体の会議の場だけでなく各部署での具体的な情報共有も必要だと感じている。

田中理事) 看護援助については、現場と教育で不一致が生じてしまう場合がある。その調整が必要だと思っている。

鎌田) 看護技術については、教員が実習施設でどこまでのケアを行えるかという問題があり、学生が板挟みにならないようにする必要がある。教員側が実習指導者に歩み寄り積極的に調整をしていくことが必要だと考えている。

落合) これまでのカリキュラムの変遷のなかで、どうしても自分が学んだ教育が染みついているためなかなか指導者さん側に入っていくのが現実である。看護過程の強化だけでは新しい看護基礎教育には当てはまっていかない。看護教育の在り方が変わってきていることも含め情報共有を十分に行っていく必要がある。

原理事) 患者さんを通して学ぶ環境を整えることが臨床側の役割である。

田中理事) 昔は発問をして「学生に考えさせる」ものだったが、今は「持っている知識は何でも伝える」に変わってきている。

原理事) 対象である学生さんが時代とともに変化していることを現場も受け止め、学生さんを仲間として受け入れる環境作りが必要である。

落合) すぐには難しいかもしれないが、実習施設と看護教育現場の人事交流があると、教育現場を知っていただく機会にもなり、教員も今の医療の現場を知ることができると思う。

原理事) 実習先での経験が看護観・職業観にもつながっている。実習を受け入れることで病院側の人材の成長にもつながるため、看護実習はお互いが成長する場として重要な教育の場である。

鎌田) よりよい学生の学びの場が提供できるよう、今後ともご意見をいただきながら県や職能団体と連携を図っていきたい。

以上

教育課程編成委員会（理学療法分科会）

日時：令和5年1月13日（土）10:00～12:00

場所：出雲医療看護専門学校 1F 会議室（対面開催）

参加者：福田 淳、石田 修平、荒木将平、神田一路

【議 題】

1. 実施カリキュラムの内容（新カリキュラムについて）
2. 臨床実習の現状と課題

（情報）

令和5年度 理学療法士学科の学生数

1年生 27名（入学時31名、退学4名、長欠1名）

2年生 31名（進級時33名、退学2名）

3年生 36名（原級留置学生1名、退学1名）

来年度（新カリキュラム）

別紙（カリキュラム新旧対照表）参照

実習形態

- | | | | |
|-------------|-----|---------|------------|
| 1. 評価実習 | 2年生 | R6年1～2月 | 4単位（180時間） |
| 2. 総合臨床実習Ⅰ | 3年生 | R6年5～7月 | 7単位（315時間） |
| 3. 地域理学療法実習 | 2年生 | R6年7月 | 1単位（45時間） |
| 4. 総合臨床実習Ⅱ | 3年生 | R6年7～9月 | 7単位（315時間） |
| 5. 評価実習 | 2年生 | R7年1～2月 | 4単位（180時間） |

※別紙（2024年度 臨床実習年間カレンダー）を参照。

【 議題詳細 】

○実施カリキュラムの内容（新カリキュラムについて）

1) 新カリキュラムについて（荒木より説明）

・教科外活動（HR）についての案について

石田）振り返りはどうするか

荒木）チューター制での対応（国家試験）について学習する。

福田）鳥リハでは内部教員が解剖運動生理に授業で触れさせておく。

教科書が読めるレベル程度までに落とし込む

わからない状態のときに教えてしまう。

荒木) 当校としてはプレカレッジの取り組みをしておく、時間としては4回分程度使えるか。

神田) 能動的な学習に繋げるにはどうすればよいか。

福田) 他学科との交流はどうか。

定期試験を増やすところはどうか。

石田) 熱意、焦りがないとわからない部分はどうか。

主体的に動かないため子達には対する教育理論

荒木) 停学。退学の理論を行うことだが簡単にはできない。

神田) 関わり行動やキャリア教育。

荒木) 教員でないところでのアプローチが必要。卒業生での話を行うのも一つ。

1年時の課題活動

福田) 1年時の車椅子バスケット、車椅子テニスなどはどうか。

モチベーションを維持するための材料。学習習慣のための課題

モチベーションを維持するための材料は外に求めるほうが良いか。

石田) 産業、スポーツのみでなく、高齢者施設などのギャップを減らすことが必要。実際に学びはそちらが多い。

○臨床実習の現状と課題

1) 現状の臨床実習の状況について

荒木) 臨床実習の数が厳しい、来年度からは学内実習を認められない。

保護者からの県外に行かせることに対する苦情

(精神面、食費などの諸経費について)

実習期間についても短縮、高頻度の実習を行う方向性

福田) 早めの実習地確保は必要。鳥根県は医療施設が少ないため、工夫が必要。

実習費のプールについても見直しは必要。

石田) 実習期間の分散については実習地の意見を聞くことも必要。

2) 臨床実習後の評価

実習後の評価としてどのように進めていくべきか。

福田) 学校側で目標を定めることは重要。実習要項はどうか。

石田) 実際に実習地側が使いやすい実習要項の見直しは必要。

福田・石田) 実習ごとの目標地点、評価基準を具体的に定め、学内での説明は重要。

第2回教育課程編成委員会 臨床工学技士部会

1. 日時 令和5年12月25日(月) 14時00分～15時00分
2. 場所 松江赤十字病院
3. 参加者 島根県臨床工学技士会会長 福田勇司 臨床工学技士学科 加藤智久

①実習の現状報告

加藤

臨床実習が3年生と専攻科が終わり問題なく終了した。

実習を引き受けてもらいどのように感じたか。

福田

臨床実習に向かう態度がここ最近で変化してきている。難しいことを伝えても学生が拒絶するばかりで理解に及ばない。

臨床実習に送る学生はどのように選定しているのか。

加藤

臨床実習の学生振り分けは臨床系担当の教員が学生と面談を行いやりたいこと、興味のある分野を聞き取りして各病院に振り分けている。

コミュニケーションに難のある学生に関しては実習担当者で連携が図りやすいように出雲近辺の病院に依頼している。何かあったとき我々もすぐ出向けるように担当者と話をして引き受けてもらっている。

どのような学生が実習に来るべきだと考えるか。

福田

態度や知識よりも個々に就職したいという学生を取りたい。学生も病院を見てどんな仕事内容か、どんな技士がいるかを確認することができるし、技士もどんな学生なのかを見ることができる。

どのような学生においても実習担当者と学校側が学生の情報を共有してほしい。

学生が社会人として出た以上どんな学生でも育てるのは現場の仕事と考えている。そのため受験する学生が実習にくることでこの病院でやっていけるかどうかを見定めることができる。

どのような学生がよいかと言われると前向きな学生が好まれると思う。

なんでもやりますという精神が人を成長させるのでネガティブ思考からスタートする学生よりも成長度合いが違う。

②新カリキュラムについて

加藤

R5年度より指定規則改定で現在の1年生から新カリキュラムで授業を行っている。新カリキュラムは専門分野の単位数が増えより実践的になっている。旧カリキュラムでは基礎科目を多くやっており、数学を3教科、英語を3教科やっていたが、新カリキュラムではそれぞれ2教科ずつに減らしている。多くやってもよいが、時間数ばかり増えてしまい、基礎的な所を抑え、専門基礎、専門と受け渡しをしていきたい。

福田

カリキュラムが変わったかといっても即戦力育成にはつながらないと思う。

国家試験を合格するための知識があれば現場で応用ができると思っている。学校は国家試験を通すということに専念できる形を取ればよいと考えている。

③学生募集について

加藤

今年8月に2回に渡り、臨床工学技士の働き方を高校生に見せることができた。赤十字病院で見学した学生も次年度は2名臨床工学技士になりたいと入学生として迎え入れることができそうである。

次年度に向け高校が長期休みの時をお願いしたい。

福田

どんなに学校で臨床工学技士の良さを伝えても現場を見るのが一番良い機会になると思う。

もっと学校も技士会を利用して募集をかけたらどうか。

加藤

技士会を通して今回3施設に高校生の見学の依頼ができた。次年度以降も是非このような機会を作り臨床工学技士の啓発や募集活動に尽力していきたいと思う。

④次年度委員会について

加藤

今年で教育課程編成委員会と学校評価関係者委員会の任期が満期となり次年度更新が必要である。

当科としても是非次年度も委員のメンバーとして登録させてほしい。

福田

業務拡大に伴い来年は忙しくなるためお断りしたい。現在島根県臨床工学技士会の会長も降り、理事として登録している。次年度の会長は島根県立中央病院の錦織氏に依頼をしており、次年度は会長ではない。

業務多忙や技士会組織編成に伴い委員を引き受けることをお断りしたい。

以上